

A. T. 社会システム学科・4 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

中学 3 年生の春休みに、学校主催の英国研修に参加したことがこの留学の大きなきっかけになったと思います。元々、日本のような島国で、多くの伝統ある文化を持ったイギリスにとっても興味がありました。いつか、もう一度イギリスへ行きたいという気持ちが強くあったと思います。大学 2 回生の秋頃、周りの友人は就活やインターンシップについて考え始めている中、私には目標や将来のビジョンがないことに焦りを感じていました。そんな時、協定大学留学制度を知り、イギリスへ留学するチャンスが私にもあるのだと知りました。家族にも背中を押してもらい、リーズ大学への留学を目指すことにしました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

選考にあたって、IELTS を受験する必要がありました。まずは 3～4 カ月ほどかけて TOEIC で自身の英語力の底上げを図りました。その後、選考までの 9 カ月間、IELTS の勉強をしていました。単語帳を何度も反復して、単語に触れる回数を多くするよう心がけていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

イギリス英語の映画やドラマを積極的に選んで見るように心がけていました。単語を定着させるため、何度も反復したり、英会話ではあえてイギリス人の先生と会話をしたりして、イギリス英語の発音に慣れるようにしました。

◆ ビザ申請方法

手続きが複雑だったので、大学から紹介してもらったビザ代行サービスを利用しました。おかげでビザの申請・取得はスムーズに行うことができましたが、代行サービスを使っても戸惑うこと、分からないことが多く大変でした。

◆ その他

入寮日まで過ごす現地のホテルを予約したり、現地で使う寝具や調理器具をリーズ大学が推奨するサイトで購入したりしました。着いたばかりの頃は、何がどの店に売っているのか把握できておらず、自分の身の回りに気を配る精神的な余裕もありませんでした。質の割に少し高額かもしれませんが、事前に購入・準備しておいて良かったです。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

ヒースロー空港に到着後、空港近くのホテルに一泊し、その後マンチェスター空港まで飛行機で移動しました。多くの荷物を抱えて、海外の電車を利用することがとても不安だったので、飛行機での移動を選択しました。

◆ **現地でのオリエンテーション期間中にしたこと**

入寮と同時に Pre-sessional course が始まったので、とても慌ただしかったです。授業が終わると毎日のように街中へ散策に行っていました。また、リーズ大学のポータルサイトやメールにアクセスするための ID やパスワードが手違いにより事前に入手できていなかったため、大学の IT サポートというところで手続きを行いました。

◆ **その他必要な諸手続き方法**

現地で銀行の口座開設はしませんでした。Pre-sessional course 期間中の寮を申請するにあたり、現地で使える電話番号の記入が必須でした。急いで現地で使えるスマートフォンと SIM (giffgaff) を購入しました。

⑤ **語学研修期間**

◆ **語学研修先の施設・環境について**

授業は大学内の様々なスタイルの教室で受けていました。構内がとても広く、迷いそうになりながらも、徐々に慣れていきました。留学生向けのブースやイベントがたくさんあるので、非英語圏の学生と知り合う機会が多かったです。

◆ **授業内容、課題、試験**

9 月からネイティブの学生と一緒に授業を受けていくにあたり、必要なスキルを身につける授業が多くありました。日々、ネイティブの先生の授業で耳を慣らしながら、Writing、Speaking、Reading、Listening の授業を受けました。私を除いて、クラスメイトは全員中国人だったので、必然的に英語で話す機会が増えていきました。大変でしたが、とても刺激的でした。最終試験では、Writing の試験が 3 回、Speaking の試験としてプレゼンテーションがあります。合格点を採らなければ、正規課程に進む事ができません。

⑥ **正規科目履修期間**

◆ **大学の施設・環境について**

構内はとても広く、新学期が始まると学生で溢れています。大学には 3 つの図書館と併設されたカフェがあります。中でも、図書館に設置された「Silent Space」という空間は、とても静かで集中できるお気に入りの空間でした。毎日のように通っていました。

◆ **履修科目について**

・ HIST1060 Faith, Knowledge and Power, 1500~1750

1500 年～1750 年のヨーロッパ（近世）の歴史を扱う授業です。一次資料（歴史資料）を用いながら、宗教革命が社会に与えた影響や当時の多様な知識・文化を分析したり、ヨーロッパと世界との関係を分析したりします。レクチャー（講義形式）とセミナー（少人数でのディスカッション）がそれぞれ週に 1 回ずつあります。最終課題は、一次資料に関する分析(1000words)と指定された問いに対する解答(1000words)でした。

・ **HIST1510 Global Empire**

帝国(empire)が世界の歴史にどのような影響を与えたかを学ぶ授業です。イギリスやフランスなどの帝国国家の政治や経済がもたらすインドやアフリカなどの植民地社会への影響、帝国主義が人種・ジェンダー・社会制度に与えた影響などを分析します。レクチャー（講義形式）とセミナー（少人数でのディスカッション）がそれぞれ週に 1 回ずつあります。中間課題として一次資料の分析(750words)、最終課題として指定された問いに対する解答(2000words)がありました。

・ **HIST2557 Thinking about History**

歴史学者がどのように歴史を研究・解釈してきたかを学ぶ授業です。歴史という学問がどのように発展してきたかを理解し、さまざまな歴史研究の方法（historiography）について学びます。10 週ある授業のうち、7 週間はレクチャー（講義形式）50 分とセミナー（少人数でのディスカッション）50 分がそれぞれ週に 1 回ずつあります。残りの 3 週間は 90 分のセミナー（少人数でのディスカッション）が週に 1 回あります。中間課題としてエッセイ(1500words)、最終課題としてエッセイ(2500words)がありました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

クラブ等には特に参加しませんでした。時々日本人の友人たちと集まり、日本食を食べたり、お互いの悩みやカルチャーショックなどを共有したりしました。皆勉強で忙しく、頻繁に会うことはできませんでしたが、何気ない会話にとっても癒されていました。

⑧ **現地での住まいについて**

◆ **語学研修期間**

◆ **正規科目履修期間**

語学研修期間、正規科目履修期間、両期間とも Central Village という寮に住んでいました。語学研修期間はリーズ大学から Central Village へ入寮するように指定がありました。この寮は大学から徒歩 15 分ほどで、街中にも近く、比較的新しい寮です。立地の面で治安が良く、24 時間受付に男性スタッフが常駐し、セキュリティ面、安全面で評価が高いことから、正規科目履修期間も Central Village を選びました。部屋は個室で、キッチンのみ共有でした。基本的に自炊で、日本の食材はアジアンスーパーで購入していました。1 フラットに 6

人が生活しており、フラットメイトは、語学研修期間は 5 人全員が中国人、正規科目履修期間は中国人 3 人、カナダ人 1 人、インド人 1 人という構成でした。時々、互いの母国の料理をシェアしてしました。

⑨長期休暇の過ごし方

長期休暇は、2 回ほどありました。1 回目は、Pre-sessional course が終了してから正規課程が始まるまでの 3 週間、2 回目は正規課程終了後から年明けまでの 3 週間ほどです。それぞれの休暇で友人とイタリア、ロンドン、フランス、ドイツ、スイスに行きました。ハプニングだらけの旅でしたが、今振り返ると、とても良い思い出です。年明けからは、1 月中旬から始まる学期末試験の対策に追われ、とても忙しかったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に就職活動はしていません。ただ、博物館学芸員の資格を取得するつもりなので、留学と並行して、各種手続きを行っていました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

正規課程が終了し、退寮した後、叔母の友人ご夫妻(イギリス人)の家に 2 週間ほどお世話になりました。リーズ大学は、留学生が多く在籍しており、ネイティブと知り合う機会がとても少なかったです。また、もともとイギリスの文化に興味がある私にとって、実際にイギリスの家庭で生活できる機会は貴重でした。一緒にピザを作ったり、スコーンの作り方を教えてもらったり、ショッピングしたり、イギリスで人気のテレビ番組を見たり、本当に楽しかったです。今では大切なイギリスのお父さんとお母さんです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学が始まってから、順調とは言い難く、ハプニングがたくさんありました。中でも正規科目履修課程は本当に苦しく、22 年間生きてきた中で、一番挫折を味わった時間でした。歴史という分野を専攻しているからか、クラスメイトは全員イギリス人のネイティブ。流暢な英語を話すことが当たり前という環境の中に、日本人が 1 人混ざり、ディスカッションをしたり、レクチャーを受けたりしなければなりませんでした。毎週課される多くの文献やレクチャーの内容を基に進められるディスカッションは、毎回何時間もかけ予習して参加していました。早口なネイティブの会話についていけなかったり、訛りが独特な先生の授業が全く理解できなったり、自分が想像していた留学生活の大変さをはるかに上回っていました。たった 4 ヶ月という短い期間でしたが、私にはとても長く濃く感じられた 4 ヶ月でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

イギリスは、パブがとても有名です。実際、大学の近くにはたくさんパブがあり、Pre-sessional course では、実際に先生にパブへ連れて行ってもらう時間があつたほどです。現地の人たちは、基本的に土曜日の夜やフットボールやラグビーの試合があるとパブへ行きます。ですので、夜になると外から賑やかな声が聞こえてきます。ハロウィンなどのイベントにも全力なので、暗い道で仮装した人に出会うと、とても怖かったです。そしてイギリスは基本的に歩行者ではなく車が優先されます。さらに歩行者が横断歩道を渡ったり、信号を守ったりすることもほとんどありません。日本の交通ルールに慣れていると、初めはとても戸惑います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

リーズ大学は、大学の規模がとても大きく、イギリス人にも人気の大学です。生徒へのサポートが非常に充実しており、分からないこと、困った事があれば何でも聞く事ができるデスクが設置されています。学習面においても、図書館が夜遅くまで、もしくは 24 時間開いていたり、レポートを書く際に使用できる文献が豊富だったり学生が勉強に集中できる環境が整っています。しかし、学生、特に留学生が多いため、ネイティブと仲良くなる機会が非常に少なかったなという印象です。実際、私の友人はほとんどがアジア圏出身です。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

基本的にパソコンは必須です。授業資料や参考文献の配布、課題提出、担当教員との連絡、各種手続きは全てオンラインで行われます。自分の使い慣れたパソコンを持っていくことをお勧めします。私は専攻上たくさんの文献を読まなければならなかったため、iPad も重宝しました。また、日常生活では日本から持参した電子レンジ専用の炊飯器、冬はカイロが相棒でした。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

イギリスでの留学生活は、私が思い描いていた”楽しい留学生活”とは全く異なるものでした。言語が通じない、でもやるしかない、そのような環境に身を置いて、人生で初めて必死に何かに取り組んだ半年間でした。楽しかった！とはお世辞にも言えない、辛いこともたくさんあつた留学でしたが、間違いなく今の私の自信につながっています。英語力においても、かなり自信がつき、特に英語を聞くこと、話すことが好きになりました。今後、IELTS を再度受験するつもりです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私の留学生活は、「楽しい」よりも「辛い」と感じることの方が多く、日本へ帰りたと思った回数の方が多いい留学でした。今、こうして皆さんに言葉をかけている私自身も、留学へ行く前は、知らない土地で過ごすことへの漠然とした大きな不安と、ほんの少しの期待を抱えているだけでした。それでも留学中に、「留学に来るべきではなかった」「どうして来たのだろう」と、留学を後悔したことは一度もありません。そして、もし留学前の自分に何か声をかけられるとしたら、きっとただ「行ってこい」と言って背中を押すと思います。

留学で、何を経験し、何を学び、何を感じるかは、人それぞれです。でも、留学で経験したこと、学んだことは、必ずこれからの皆さんの糧になっていきます。今は不安で不安で仕方ないかもしれませんが、まずは歩き始めてみてください。応援しています。

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

まだ具体的な進路は決めていません。ですが、必ずこの留学の経験や英語を活かした仕事をしたいと思っています。

V. 写真



リーズ大学の風景です。晴れている日が少ないので、天気の良いとついつい写真を撮りがちです。



ロンドンアイが見えるウェストミンスター橋で撮影した写真です。ロンドンは晴れている日でも急に雨が降ってきて、天気がコロコロ変わります。この日も晴れていたかと思うと雨が降り、いつの間にか虹が出て、また晴れ間が見えてきました。とてもロンドンらしい写真で気に入っています。

2025 年度（春スタート・1 年）
University of Leeds



イギリスを去る直前、2 週間ほどお世話になった Coleman ご夫妻です。色々なところに連れて行ってくれ、本当に貴重な経験をさせてもらいました。大好きな 2 人です。